

# 柏市図書館のあり方（案）

平成 30 年 11 月 9 日更新版

柏市教育委員会

## 目 次

・はじめに	P. 1
・基本理念	P. 1
・基本方針	P. 2
・理念と方針実現のための機能	P. 3
・理念実現の考え方	P. 5
・課題	P. 7
・協働で作る図書館	P. 9
・資料	
1. 検討のプロセス	P. 10
2. いただきましたご意見	P. 13
3. その他資料	P. 20
(1) 複本に関する資料	
(2) 柏市立図書館資料収集方針（抜粋）	
(3) 柏市立図書館寄贈資料に関する取扱い基準（抜粋）	
(4) 書店からの図書購入について	
(5) 蔵書の配置状況	
(6) 図書貸出状況	
(7) 分類別蔵書構成比	
(8) 貸出利用者の地域分布	
(9) 柏市第五次総合計画での位置づけ	

## はじめに

いま社会は、人生100年時代を迎えようとしており、人工知能(AI)・ロボティクス等の新しい技術が日常生活や企業等に浸透し始めるなど、社会の大転換期を迎えています。

これを乗り越え豊かな人生を生きるために、生涯にわたって学び、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことの必要性が一層高まっています。さらに、将来的に想定される人口と税収の減小が見込まれます。

この「柏市図書館のあり方」(案)は、こうした時代を見据え、長期的視点から、柏市の図書館を運営するための理念や方針、理念実現のための考え方を示すものです。

今回の検討にあたっては、たたき台として当初提案いたしました市の案について、議論の積み上げと深化のため、案の更新を行っています。今回の更新では、主に、7ページの「資料収集」、10ページ以降の「資料」の部分を更新しました。これまでいただきましたご意見等の詳細は、報告書として市のホームページで公開しておりますのでご覧ください。

今年度末の策定を目指し、引き続き市民の皆さまと検討を進めてまいります。

## 基本理念

学びと活動の循環による、ひとづくりの拠点

## 基本方針

### 1. 生涯を通じて学び、生きる力・知識・技能を取得できる図書館

未来を担う子ども達が、予測困難で複雑な社会においても、幸せに生きる力を養うことや、自信につながる「自己有用感」を獲得することを支援します。また、社会の大きな変化のなかで、誰もが何度でも学び、知的刺激を受け、自己の能力を高められる知の拠点として機能します。

### 2. 学び合いと社会的な活動につながる、ゆるやかなコミュニティを育む図書館

少子高齢化、人口減少、価値観の多様化・複雑化など、社会を取り巻く環境は急速に変化しています。その中で、仲間をつくるきっかけとなる場や、仲間と学び合い、創造的な活動ができる環境の重要性はさらに高まっていくものと考えます。図書館は、市民が地域社会の一員として社会参加できるよう、つながり、そして共に学ぶゆるやかなコミュニティづくりの拠点となり、ひとづくりを支援します。

### 3. シビックプライドとパブリックマインドを育む図書館

図書館は単独で存在するものではなく、地域とのつながりにおいて、その機能を発揮するものだと考えます。図書館は、潜在力を秘める市民の知的な活動を支えることで、積極的に地域とつながります。そしてコミュニティ活動の原動力となる「シビックプライド（地域への愛着・誇り・ふるさと感）」と、まちや地域のために役立つことをしようとする姿勢である「パブリックマインド」を育む場所となります。

## 理念と方針実現のための機能

### 1. 未来を担う子どもたちが幸せに生きる力をつける機能

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとし、人生をより深く生きる力を付けていく上で欠くことのできないものです。

図書館は、子どもに読書体験を提供し、発達や学びの連続性を踏まえた支援をすることにより、読書習慣や読解力を育みます。また子どもの読書習慣の獲得には、家庭の協力が不可欠です。保護者に対しては、子どもの読書活動への理解や関心を高める役割を果たします。

その他にも、多世代交流や子ども司書活動などを通じて、自分が必要とされていると感じる「自己有用感」の獲得や、遊びと体験の要素を通じて、考える力や工夫する力を養うことを支援します。

### 2. 生涯にわたる学びを支援する機能

長寿化した人生では、生涯を通じて学び続け、必要な新しい知識や技能を取得できる環境があることが重要です。また、困難を抱える家庭への読書環境の提供や、労働市場の構造変化により、学ぶ必要に迫られた際にも、学ぶ環境を提供するなど、図書館は学びのセーフティネットとなることも求められます。複雑で予測困難な社会の中で、図書館は、何度でも学べる場となり、人生の可能性を広げ、生きる力や幸せをつかむ力を養う環境を提供します。

### 3. ゆるやかなコミュニティ形成機能

本市では、多様なコミュニティ活動が主体的に行われ、新しいことに挑戦するアクティブな市民や事業者が多く活躍し、まちや地域の活力や賑わいを生み出しています。

地縁的なコミュニティだけでなく、プロジェクトごとに関心のある市民や事業者が、必要に応じて集まるネットワーク型コミュニティも次々に生まれており、これらを生み出す「ひと」や、地域を支える「ひと」こそが、図書館が目すべき「柏らしさ・柏の特長」だと考えています。

しかし、コミュニティの中にいる人同士の連絡・連携は強固ですが、個々のコミュニティ同士のつな

がりは十分ではありません。また、ライフスタイルに起因するコミュニティへの参画不足や特定のコミュニティへの帰属を忌避する市民の存在（「控えめな市民」）は、本市においても見受けられます。

分離・点在するコミュニティ同士やアクティブにコミュニティ活動に参加する市民だけでなく、そうではない「控えめな市民」も参加できる「ゆるやかな紐帯」を支える基盤の一翼を図書館が担います。

#### 4. シビックプライド（地域への愛着・誇り・ふるさと感）の醸成機能

自分の住む地域を知ることが、地域への愛着や誇りにつながり、地域を良くしようとの思いにつながります。特に、子ども達が、生まれ育った柏市を「ふるさと」と感じてもらえるよう、子ども達が地域を知る活動を図書館は支援します。また、地域の活力には子どもの存在が不可欠であり、地域と子どもの交流機会の創出にも貢献します。

## 理念実現の考え方

### 1. ひと：利用者

これからは、行政だけが公共の役割を担うのではなく、市民や事業者など地域の様々な主体が、公共の担い手として活動することが求められます。そのためにも、まちや地域のために役立つことをしようとする姿勢である「パブリックマインド」を養うことが大切です。社会教育施設である図書館は、市民の主体的な学びと交流を通じて、このパブリックマインドを育む機能を担います。

### 2. ひと：職員

これからの図書館職員には、地域と市民をよく知り、新しい知識を積極的に吸収する姿勢が不可欠だと考えます。従来からのレファレンス能力だけではなく、関係機関や市民との関係性を構築するコミュニケーション能力やコーディネーション能力、広報能力、上位計画を踏まえた政策立案・予算編成・折衝能力、実行力、組織のマネジメント能力を持つ人材が必要です。また、今後は紙の資料だけでなく、デジタル資料も取り扱うことになるため、ICTリテラシーを持った人材が求められ、また、利用者にICTの知識や技能を伝える能力のある人材が必要です。

司書の資格を持つ職員だけでなく、これら多様な能力を持つ職員や、様々な分野で経験を積んだ職員を配置し、総合的な組織力の向上を目指します。

### 3. もの：施設

図書館は、世代をこえた多様な市民が学び合い、共有することで、知的好奇心が生まれる場や学んだことの実践の場となります。賑やかで活気ある知の拠点である図書館は、コミュニティや市民の交流の場や、知的活動の成果を伝える場としても機能します。また、図書館の資料とインターネットの情報を併用して調査ができ、パソコンを使って成果をまとめられる環境も必要です。

#### 4. もの：資料

図書館の特長は、網羅性と専門性であり、資料同士の関係性を発見できる物理的な空間を持つことだと考えます。文芸書に偏ることなく、様々なジャンルの資料や、個人では買うことのできない資料を揃え、必要な調査や学習ができる蔵書構成を目指します。

また、資料の提供だけでなく、講演会などの企画により市民の学びと交流を支援します。

#### 5. こと：運営(学校図書館連携・支援)

図書館は学校図書館の支援も重要な業務です。近年、調べ学習など学校図書館は子ども達の学習に不可欠なものとなっており、学校図書館にない資料でも、必要な時にすぐに手に入るよう、分館と学校図書館の配送ネットワークの一本化と連携を進めます。

また、子ども司書活動や、調べ学習等の子ども達の学習成果の発表の場として分館を活用し、地域交流・多世代交流を通じて、子ども達の「自己有用感」の獲得を目指します。

さらに、子ども達への切れ目ない読書活動の支援や地域との連携のため、学校図書館と分館の融合を検討します。

#### 6. こと：運営(地域資料の保存と活用)

柏の地域資料を保存し、活用することは、柏市でしかできない事業です。特に柏市の発展と重なる近現代の地域資料は、いま急速に失われています。この近現代から現在日々生み出されている資料を保存し、伝えていくことは、本市の図書館が積極的に担うべきものと考えます。

また、本市には様々な分野に詳しい市民が多く住んでおり、その知的創造活動によりつくられた資料は、柏市の貴重な地域資料となります。市民と協働した取り組みやデジタルアーカイブの検討が必要です。



## 理念実現への課題

### 1. 財源と業務効率化

「人口減少（生産年齢人口減小）や経済縮小による税収減」と「民生費や公共施設の更新費用の増大」により、自治体の財政は将来的に厳しさを増していきます。これからは、人口増加と経済成長により増加する税収を原資に、行政サービスを拡大できた時代の考え方からの転換が必要です。

施設の更新・統廃合・長寿命化などを検討する際には、将来の人口動態や財政規模を踏まえて、「あれもこれも」ではなく、持続可能な計画とすることが不可欠です。

また、日々の運営に関しても、定期的に業務の評価と見直しを行い、ICT化とデータに基づいた運営により、定型業務については徹底した業務効率化を進め、専門業務や新しい機能への取り組みに割く時間を増やしていかなければなりません。

### 2. 資料収集

幅広い情報を提供するため、多様なジャンルの資料、個人では購入困難な高額な図書、最新の情報が必要とされる資料の更新などを重視するとともに、地域の図書館として、柏市に關係する資料を網羅的に収集することが重要であると考えます。

また、図書館以外でも手にする機会の多い新刊のベストセラー書籍等の複本を大量に所蔵することは、特定の書籍に限りある予算や限りある所蔵スペースを使うことにより、本来市民が手にできる資料との接点を失わせてしまうことにもつながります。さらに、利用者からの要望や、利用が多ければ、複本を揃えるという方針は、著作者、出版社、書店の利益を損なう可能性も無視できません。

一部の自治体では、このような認識のもと資料の収集について見直しの動きも始まっています。本市においても同様に資料収集の方針等の見直しを検討すべき時期にきていると考えます。

### 3. 図書の分散

現在の蔵書 92 万冊のうち、22 万冊が 7 箇所の書庫、58 万冊が 17 箇所の分館に分散しています。分館には市内に 1 冊のみの図書も多く配架されており、例えば 3 万 6 千冊の蔵書がある南部分館では、その内の 1 万 2 千冊の図書が市内に 1 冊のみとなっています。図書が分散していることによって、網羅性・専門性・資料の関係性の発見など、図書館としての特長が発揮できていません。また、図書の分散により配送業務も非効率となっています。図書館本来の役割を果たすために、市内で最も規模の大きい本館には、調べ物ができるように必要な調査や学習のための資料を集中的に配架することを検討します。

### 4. 分館機能の再定義

市内には貸出機能が中心の 200 m 程度の小規模な分館が 17 館あり、新たな機能を担う余地がありません。持続可能で、これからの社会と地域に求められる分館機能について検討が必要です。

## 協働でつくる図書館

本市の図書館利用カードの登録率は年々低下を続け、現在2割を下回っており、市民の図書館離れが進んでいます。これからの図書館は、多様な市民に利用されることはもちろん、さらに社会のために役立つ存在とならなければなりません。図書館を利用することによって生まれる価値が、市民と地域のために不可欠であるということが、広く市民から評価されることが求められます。

また、市民に必要な情報は、資料の中だけにあるものではありません。市民一人ひとりが持っている知識や経験が、他の人に循環し、受け継がれ、その知識が活用されることも重要です。市民の積極的で主体的な参画により、図書館は情報と情報、情報と人、人と人をつなぐ場となります。

そのためにも、市民も図書館の所有者・運営者であるという認識のもと、行政と一緒に図書館をつくり上げていくことが求められています。図書館はレファレンスなどのサービスや運営の情報を広く市民に発信・共有するとともに、市民・事業者・コミュニティ・関係部署・関係機関と積極的に連携します。

## 資料

## 検討のプロセス

これまで、次のとおり検討を重ね、幅広い年齢層や様々な場で活躍する市民の皆さまのご参加をいただき、貴重なご意見をいただいております。また、多くの市民の皆さまへ、図書館への関心と図書館のあり方を検討していることを知っていただくため、情報発信を積極的に行っています。

### 1. 未来の柏の図書館について語り合おう！（全5回）

市民活動・コミュニティ活動に積極的な市民の皆さまは、現在の図書館にはどのような課題があると考えているのか、また、未来の図書館に何を求めているのか。活動の拠点に訪問し、ワークショップ形式でご意見を伺いました。

- (1) 平成30年7月29日（日）パレット柏／市民活動の拠点／23名
- (2) 平成30年8月9日（木）Noblesse Oblige (Nob) ／コワーキングスペース／7名
- (3) 平成30年8月19日（日）手作り科学館 Exedra／大学院生や社会人が作った科学コミュニティの場／5名
- (4) 平成30年9月19日（水）UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）／公民学連携によるまちづくりの拠点／16名
- (5) 平成30年10月9日（火）高柳コミュニティカフェ「茶論（さろん）」／地域の多世代交流の場／8名

### 2. 柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス

市内で最も人通りが多いと考えられる、柏駅東口のダブルデッキを会場に「柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス」を開催しました。

このイベントの中で、現在図書館を利用していない方も含めた幅広い市民の方へ、「図書館の基本機能にプラスして求める新しい機能とは？」と題し、シールアンケートを行い、市民の皆さまが求める図書館の新しい機能について調査を行いました。

日 時：平成30年10月5日（金）、6日（土）

シールアンケート回答者：164名

自由意見回答者：33名

※各種展示やブックトラックに興味を持った方やイベントへの参加者多数

### 3. 未来の柏の図書館像を考えるワークショップ（全4回を予定）

#### (1) 中高生ワークショップ

中高生は普段どこで過ごしているのか、そしてどのような居場所を求めているのかを切り口に、中高生にも愛される未来の図書館像を考えました。

日 時：平成30年10月7日（日）

場 所：パレット柏

参加者：6名（中学生1名、高校生5名）

#### (2) 第1回ワークショップ

「まちから考える未来の柏の図書館像」をテーマに、年齢や立場の違う参加者が一緒にまちを歩くことにより、〈私〉だけの要望ではなく、〈私たち〉の課題の発見や新しいアイデアの創造を行い、さらに議論を深めるための材料出しを行いました。

日 時：平成30年10月20日（土）

場 所：柏市まちづくり公社及び柏駅周辺

参加者：9名

### 4. 柏市立図書館協議会

#### (1) 平成30年度 第1回

日 時：平成30年8月9日（木）

場 所：柏市役所本庁舎 第5・6委員会室

内 容：情報提供（公共施設の老朽化と再整備、人口減による財政縮小、図書館での新しい取り組み 等）  
意見聴取

(2) 平成30年度 第2回

日 時：平成30年10月24日（水）

場 所：柏市まちづくり公社

内 容：進捗報告

意見聴取（複本、学校図書館との連携・支援 等）

## 5. 情報発信

今回の検討の報告や進捗については、市のホームページの他、Facebook や Twitter でもお知らせしています。また、紙媒体では進捗状況等をお知らせする「かしわストーリー」を作成し、市内の30箇所以上の施設で配布を行っています。

(1) 柏市ホームページ（「柏市図書館のあり方」の策定について）

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p046994.html>

(2) Facebook

<https://www.facebook.com/kashiwa.futurelibrary/>

(3) Twitter

[https://twitter.com/kashiwa\\_future1](https://twitter.com/kashiwa_future1)

(4) かしわストーリー

第1号 平成30年9月6日（木）発行

第2号 平成30年10月15日（月）発行

第3号 平成30年11月2日（金）発行

## いただきましたご意見

これまで参加者の皆さまから様々なご意見をいただきました。ここにご紹介できたものは、いただきましたご意見の一部です。市のホームページ（巻末参照）に全ての報告書等を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

### 〈図書館運営全体に関するご意見〉

- ・一部の市民しか使っておらず、多様性がない。色々な職業や年齢層の人がいれば、本だけでなく、そこに集まる人からも学ぶことができる（パレット）
- ・書店との違いとして「共有の場」であることが大事（パレット）
- ・図書館はシェアリングエコノミーの大元として可能性がある（Nob）
- ・柏でのビジネス、小商い、生業を支える図書館（Nob）
- ・図書館本館の2階に行くと、特定の男性たちが使っている景色が目に入る。パレット柏も高校生の勉強の場として定着している。そういった特定の利用者像と結びつかない場所に図書館がなれば、個人的には使いやすくなるのではないかと思う（Exedra）
- ・図書館は図書館としてしっかりしてもらいたい。図書館像が色々と言われる現状で、色々な要望を聞きすぎると、本来の図書館のあり方がぼやけてしまうのではないか。図書館本来のあり方を追求すれば自然とエッジの効いた図書館になるはずだ。柏市の図書館は他にはない、代替性のないものになって欲しい（Exedra）
- ・40万人の市民がいるなかで、どこのニーズに特化していくべきか。それが決まれば柏市の特徴となるだろう（Exedra）
- ・ルールの少ない図書館になるとよい。今の図書館には禁止事項が多い（Exedra）
- ・本を読む場所、借りる場所だけでよいのか。様々なニーズを満たす場所、「きっかけ」づくりの場所となるとよい（UDCK）
- ・移動図書館を使ったアウトリーチに取り組んでいる図書館（UDCK）
- ・周りの人とおしゃべりができて、気楽に過ごせる場所。ふらっと入りたくなるような、快適だと感じてもらえるような場所となって欲しい（高柳）
- ・読書離れとIT化が進んでいる現状に図書館は対応できているのか。現在の機能のままの図書館であれば、この先の時代には不要となる（高柳）
- ・専門性の高い司書の手助けを得られること（パレット）
- ・分館にも本のことがわかる司書が必要（フェス）
- ・IT化により司書の役割が広がっている（高柳）
- ・司書の専門性を教えて欲しい。レファレンスを尋ねる発想がなかった（Exedra）

- ・これからの図書館員はもっと外に出なければいけない（フェス）

#### 《知的活動に関するご意見》

- ・挑戦を促す場所であってほしい。自分で買えない難しい本が読めるだけでなく、講座やイベントを開くことで、学び直しや、起業への挑戦を応援することもできるはず。学びのセーフティネットとなってほしい（パレット）
- ・ただ本があるのではなく、人と本がつながり、人と人がつながる、人と本（資料）のネットワークの場、何か新しいことが生まれる場であること（パレット）
- ・知識を得るだけでなく、課題の作成や発表の準備までできるとよい。市民の研究等の成果を伝える場としての図書館の可能性（Exedra）
- ・いまの中高生は、学校で調べ学習やグループ学習によるアウトプット型の教育を受けてきているが、学校以外にこれを実践できる場がない。（中高生WS）
- ・スポーツ活動（部活動）と比較して、知的活動の場やその成果を発表する場所と機会が少ない（中高生WS）

#### 《資料全般に関するご意見》

- ・今の図書館はただ本を並べているだけではないか。蔵書の整理が必要。取捨選択をしてスペースを確保したい（Nob）
- ・調べ物をするとき、参考資料が各分館に散らばっており利用しづらい（UDCK）
- ・数が多いだけでなく、質のいい蔵書があると人が集まる（Nob）
- ・専門的なものも含めて、調べたいものが何でも一通りあること。ネットの情報の原典を調べられ、掘り下げていける場所（Exedra）
- ・必要な書籍を書店で買い揃えとかなりの金額になる。多様な分野の本が一箇所にあり、関連する領域を、あっちに行ったり、こっちに行ったりして、関係性を発見していけるのは、物理的な空間を持つ図書館の特長だと思う。網羅性と専門性が書店との違い。点の情報ではなく関係性の可視化が大切（Exedra）
- ・図書館に求めるのは、仕事に必要な本、調べ物の本。柏市の図書館にはそのような本が少ないので使っていない。小説などは自分で買っている（Exedra）
- ・専門書が少ない。仕事をしている人は専門書を読みたいと思う（UDCK）
- ・紙媒体以外を置く必要はないのか（UDCK）
- ・デジタル資料の充実した場所（フェス）
- ・ちゃんと本をそろえて守る。貸し出しをする。その基本のために予算を使いなさい。それが図書館です（フェス）



#### 〈図書館協議会での複本に関する意見〉

- ・児童書については、どの時代でも読み継がれる本がある。これについては蔵書が多くて良いと思う。一般書については、話題になった本に偏ると推測する。一時期のブームであるならば複本を少なくして、予約を待ってもらおう方向にしてもよいのではないかと。（協議会②）
- ・「母と子のつどい」では絵本が必要であり、読み聞かせに必要な本がいつでもあることは子育て支援の観点からはありがたい。（協議会②）
- ・リクエストは特定の人に偏っていないか。同じ人の要求が繰り返されていないか。多様な層からのリクエストを受けることが大事ではないか。その中で複本が増えることは致し方ない。（協議会②）
- ・小学校では子ども達にアンケートを取りリクエストを聞きながら精選している。人気シリーズについては多めに置いているが、それだけではなく、頻繁に図書室通いをしている子どもは深い本を手広く読んでいるので、そのような子供の少数意見も大切にしている。（協議会②）
- ・学校図書室での選書には神経を使っており、年に何度も選書リストを持ち寄って話し合っている。限りある予算の中で、調べ学習の本であっても同じ本ばかり揃えられないので、グループ単位で6~8冊揃えていく。課題図書は年によって変わるので翌年は読まれない。色々な本を揃えたいので、学校では複本をよしとしていない。（協議会②）
- ・やはりすぐに手に入るとありがたいので複本が良くないとは一概に思わない。リクエストの多いものに対しては沢山揃えて欲しいと思う。（協議会②）
- ・子どもは読みたい本はすぐに読みたいだろうから複本は必要だと思うが、大人は少し我慢してもいいかと思う。（協議会②）
- ・複本に関しては町田市でマスコミが一時騒いだが、現在は沈静化している。出版社による新刊についての問題も沈静化している。児童書や学校で利用するような本は一か所で揃えられず大量に必要とされる場合もあるので、そのジャンルの複本はあつてしかるべきと考える。文芸書についても闇雲に揃えるのではなく、厳選していくべきものとする。（協議会②）
- ・保護者が図書館へ行きたいと思えるよう、ある程度の料理本やハウツーもの等もそれぞれ揃えていくというのも間違いではない。（協議会②）
- ・購入と寄贈を分けて考えることについては、県南の図書館ではベストセラー的なものは寄贈募集をよびかけているように、市民が市民に還元していく流れをつくってもよい。（協議会②）
- ・複本がすべて悪いわけではなく、ものによってよいもの、わるいものがある。多くの資料を揃えるのは当たり前である。（協議会②）
- ・（事務局作成の先進自治体との比較資料は）新しく大規模に図書館を作ったところが多いのではないかと考えた。柏市と同様に予算も書庫もないが古くから細々とやってきて、そういうところで利用を伸ばしている図書館と比較することも大切でないかと思う。（協議会②）
- ・複本については児童書と一般書を分けて考えないといけなない。児童書は評価の定まったロングセラーが多い。子ども達が来た時に手に取れるということを実現しているので、児童書の複本が多い事はよいことだと

思う。一般書は児童書と違いロングセラーのものだけではなく多様性も大切になるため、複本をどれだけ揃えるかは迷う。我孫子市では13万都市、3分館で10冊まで購入し、寄贈をHPで呼びかけている。ブームが過ぎて無駄になるかもしれないが、分館数を考えると柏市の複本の購入上限20冊は多すぎるわけではない。一般書については、買えばいい、と考える方も多くいるが、家にも本がいっぱいなので何ヶ月であろうと待つ図書館で読み、本当に良ければ買いたい、という使い方をしている人もいる。回転数も多く、柏市で20冊というのは無駄ではないのではないかと考える。(協議会②)

#### 〈地域資料に関するご意見〉

- ・地域の文化資源を扱う総合的な機関となってほしい。本と博物館を融合させた、新しい展示や見せ方を示して欲しい(パレット)
- ・個人では集められないような資料を集めて欲しい(地域の昔の写真・航空写真)(高柳)
- ・郷土の歴史について一番詳しい場所(Nob)
- ・柏市の歴史を体系立って知ることができる場所(UDCK)
- ・まちのアーカイブ資料としての図書館(UDCK)
- ・郷土資料へのアクセス。もっとデジタル化が進むとよい(Nob)
- ・図書館が郷土資料館や博物館と連携し、AIを活用して、文化を情報としてタブレット端末で見られるようにすることにより、それを通して多くの人が興味を持てば、実物を見よう、とかお年寄りの話を聞こうとかにつながっていく。モノとしての文化が失われていくなか、それを受け止めるのが図書館。失われていくモノを保存できるのは今ではないか。活用できる技術をどんどん活用し、破損し失われていくものを伝えていくことが大切と考える(協議会①)

#### 〈市民活動・コミュニティ活動・交流に関するご意見〉

- ・世代を超えてコミュニケーションが取れる世代間交流ができる図書館。幅広い人々が入り出ることができる場所(UDCK)
- ・地域コミュニティを活かし、地域に必要とされるような複合的な要素が必要(高柳)
- ・いまの図書館は個人利用しかできない。グループ学習ができるスペースも必要(UDCK)
- ・母親たちのコミュニティの場になって欲しい(パレット)
- ・図書館プラスアルファ(ホール、学習スペース、趣味の部屋、ミーティングスペース、ワークショップスペース、イベントスペース)があると、まちのコミュニティ活動がさらに活発化する(UDCK)
- ・語り合いや対話ができる場所(高柳)
- ・本以外のもの(日常のために必要となる芝刈り機などの道具、ボランティア活動を支える設備・備品、宿題で使うミシンなど)を貸して欲しい(高柳)

- ・様々な背景を持つ幅広い年齢層の大人や、自分達より年下の子ども達との交流や活動を通じた学びの機会がない（友達・親・先生が中心の世界）（中高生WS）
- ・参加のハードルが低い「集える場」と「つながる場」が必要ではないか。点と点を見える化してつなげる工夫が必要ではないか（WS①まち歩き）

#### 《子ども・学校連携に関するご意見》

- ・図書館には子どもを本に親しませるために行く。目的があって行くのではない。いまは、子どもが自分で読みたい本を借りているだけで発展性がなかったり、親の好みで子どもに本を選んでいて、次にどんな本を選んであげたらよいか迷うことがある。本をすすめてくれるプログラムやアドバイスがあれば使ってみたい（Exedra）
- ・子どもにプロの演劇や人形劇を見る機会を！都内ではそのようなイベントが行われている。ミニシアターなど、子どもがワクワクできる場所が欲しい（フェス）
- ・子どもと親がくつろげる場であること（Nob）
- ・保育園、幼稚園、学校等と連携し、図書館に行かなくても学校で図書館の本が借りたり返せたりできるとよい。遠くまで歩いていけない子どもたちが、自分が通う学校でさまざまな本を借りることができる（UDCK）
- ・低学年の子や未就学児はお母さんと来るので、母親がアクセスしやすい場所にあることが大切。駐車場は必須（高柳）
- ・中高生がたまれる場所がないので、彼らの居場所（サードプレイス）としての役割も期待したい（パレット）
- ・中高生がお金をかけず安心して過ごせる居場所が少ない（保護者も安心できる居場所が必要）（中高生WS）
- ・Exedraに来る子どもたちも、ネットで調べることが多いので、本で調べる方法を教えてくれるプログラムを提供してほしい（Exedra）
- ・行き場のない子どもたちもいるはず。そのような子どもたちの居場所になってほしい（UDCK）
- ・大人向けのスペース、子ども向けの児童室と分けるのではなく、大人も子どもも気兼ねなく一緒に楽しめる図書館だと、家族全員で楽しめる（UDCK）
- ・子どもたちの将来や仕事について考える場として図書館を位置づけてはどうか（高柳）
- ・いまの子育て世代や子どもたちは、とにかく忙しいので、コミュニティカフェや土曜ひろばにも、だんだんと子どもが集まらなくなっている。同じ講座ばかりで子どもが飽きてきてしまっている可能性もあるので、これまでとは違う形で多世代交流ができるアイデアを図書館から提供してもらえるとよい。たとえば、ロボット教室等をやったときは、子どもたちもよく集まってきてくれた（高柳）
- ・いまの子どもたちは、テレビやインターネット、ゲームに時間をとられている。大人も一緒に楽しめるような機会や場所があるといい。子どもと大人と一緒にできることを探していけるといい（高柳）

- ・田中分館の田中スタンダードを、地域での交流に生かしている。今後もこういう分館を増やし、地域の人と交流を深めて欲しい。（協議会①）
- ・今後子ども司書の取組みを広げて、希望者を増やしたい。そのためには、学校の中で図書館の利用方法や意味を変えていく必要がある。以前は図書室は読書をする場所だったが、今は調べ学習が主流になっている。これからは異年齢での交流、子ども司書活躍の場になっていくと考えられる。現在の子ども司書の活動は学校それぞれで特色を発揮してやっているが、図書館職員と学校が、どういう活躍の場があるのか一緒に考えていただける機会があるとよいと思う。子ども達は図書館は読書をする場所と思っており、それだけではないということが現場に伝わっていない。発信されていても学校現場に伝わっていない現状。図書館と学校現場がどのように話をしていくか、どのように繋がっていくかということが大きな課題でないか、と思う。発信していても伝わっていないということであればもったいないので、学校に来ていただくとか、学校の様子を見ていただく等の活動が図書館と学校の交流には効果的だと思う。（協議会②）
- ・学校図書館と市立図書館との連絡は電話ではなくメールでのやり取りがよいと思う。書面の方が間違いがない。調べ学習の本は学校図書館でも用意するが、市立図書館でも更に購入をお願いしたい。日本語を母国語としない子どもが増えている。英語だけではなくアジア各国から来ているので各言語の本があればよいと思う。デジ書の本の充実もお願いしたい。このような本は学校図書館で揃えるのは難しいので図書館で揃えて欲しい。（協議会②）
- ・学校図書館で子ども達が読書活動をスタートさせ、将来にわたって図書館を利用する、調べたいことを調べられる力を付けるきっかけになってほしい。学校図書館を通じて、市立図書館や分館をスムーズに使えるようになることが大切である。授業の中で図書館での調べ方やリクエストのやり方を教えるとか、まち探検時に端末画面での予約してみる、などちょっとしたきっかけを繰り返すことによって、自分でできる、という体験をすれば、個人個人が学校図書館や分館をとらして図書館と近くなれるのでは。（協議会②）
- ・子育てにつながる場所が見つけにくい。若者の居場所があるようでない（WS①まち歩き）

#### 《分館に関するご意見》

- ・規模の小さな分館が多数ある。集約すべきではないか（Nob）
- ・分館がたくさんあるが、特徴や魅力に乏しい（パレット）
- ・分館は書庫になっている（高柳）
- ・分館は子どもを連れていきやすい場所にある。読み聞かせや子育て支援の場としての機能を充実してほしい（パレット）
- ・分館を充実させてほしい。量の問題ではなく質の問題であり、現状の分館は手狭すぎる（パレット）
- ・施設が古くなって空間に余裕がなくなっている。子どもが寝そべて本を読むようなスペースをいまの施設に期待するのはむずかしい。分館のスペースも限られているので、ゆったり過ごせるスペースがどこにもないのが課題（Exedra）

- ・各近隣センターに図書室があるのが良い。子育て中は助かる（フェス）

#### 《その他のご意見》

- ・20年後、30年後に向けた展望がない（パレット）
- ・政策的な投資が欠かせない（Nob）
- ・新しい図書館のビジョンと一緒に、貸出冊数ではない新しい評価指標も確立してほしい。そうでないと、いままでと同じような図書館になってしまう。（Exedra）

※その他、本館や分館の建て替え・リニューアル・新設、大型化、複合化、サービスポイント（受取・返却窓口）の設置、市内10駅・コンビニ・商業施設等への返却ポストの設置、開館時間の延長、夜間受取、蔵書の充実、ICT化（ICタグ、自動貸出機、Wi-Fi）、カフェの導入、飲食の容認、図書分類の改善などについても多くのご意見をいただきました。

#### 《柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス シールアンケート結果》

10月5日（金）、6日（土）に開催した「柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス」では、より幅広い市民の皆さまに「柏市図書館のあり方」策定のプロセスにご参加いただくことを目的に、シールアンケートを実施しました。結果は次の通りです。

- |  |  |
|--|--|
| (1) ローカルベース 65票<br>柏市の情報と人が集まり賑わうところ   | (7) 日常の安心安全 35票<br>災害の記録を保存して日頃から備える   |
| (2) リトリート 57票<br>なんにもしないで、心と体をリフレッシュ   | (8) ゲームセンター 31票<br>遊ぶように学んだり、遊びながら学んだり |
| (3) ミライへ 57票<br>子どもたちを見守り、未来へつなぐ       | (9) ギフト 28票<br>与えられるだけじゃない、つながる場所      |
| (4) カルチャーコモンズ 51票<br>興味や関心を、発信して共有する   | (10) ガレージ 27票<br>自分で使う情報やモノを自分でつくる     |
| (5) 書斎 50票<br>ひとりで仕事や創作に集中する           | (11) コワーキング 26票<br>事務所や会議室を共有しながら働く    |
| (6) コラーニング 41票<br>みんなで同じ場を分かち合い、共に学びあう | (12) 編集室 24票<br>資料の提供だけでなく、情報の発信もできる   |

「地域の情報や人が集まるコミュニティのハブとしての図書館には、本を借りる目的がなくても、自然と市民が集まって思い思いに過ごす中で、自然と多世代交流が生まれ、柏市に愛着やプライドを持った次の世代が育っていく・・・」そんな図書館像の一端が垣間見られるような投票結果となりました。

## その他資料

### 1. 複本に関する資料

#### (1) 年間貸出上位 20 タイトルの貸出回数と複本冊数（平成 28 年度）

一般書ベストリーダー（平成29年度図書館年報から）

順位	図書名	著者	出版者	回数	複本冊数
1	旅立ノ朝 書き下ろし長編時代小説	佐伯 泰英／著	双葉社	479	26
2	竹屋ノ渡 書き下ろし長編時代小説	佐伯 泰英／著	双葉社	473	27
3	火花	又吉 直樹／著	文藝春秋	470	32
4	村上海賊の娘 上巻	和田 竜／著	新潮社	467	28
5	虚ろな十字架	東野 圭吾／著	光文社	458	23
6	祈りの幕が下りる時	東野 圭吾／著	講談社	455	26
7	銀翼のイカロス	池井戸 潤／著	ダイヤモンド社	446	25
8	豆の上で眠る	湊 かなえ／著	新潮社	421	20
9	村上海賊の娘 下巻	和田 竜／著	新潮社	420	25
10	流	東山 彰良／著	講談社	408	25
11	夢幻花	東野 圭吾／著	PHP研究所	406	25
12	人魚の眠る家	東野 圭吾／著	幻冬舎	403	23
13	リバーズ	湊 かなえ／著	講談社	399	20
14	終わった人	内館 牧子／著	講談社	398	20
15	山女日記	湊 かなえ／著	幻冬舎	396	21
16	荒神	宮部 みゆき／著	朝日新聞出版	384	22
16	サラバ！ 上	西 加奈子／著	小学館	384	22
18	悲嘆の門 上	宮部 みゆき／著	毎日新聞社	378	18
19	悲嘆の門 下	宮部 みゆき／著	毎日新聞社	374	18
20	教団X	中村 文則／著	集英社	373	20
				8,392	466

児童書ベストリーダー（平成29年度図書館年報から）

順位	図書名	著者	出版者	回数	複本冊数
1	ねないこだれだ	せな けいこ／さく・え	福音館書店	904	123
2	しろくまちゃんのほっとけーき	わかやま けん／著	こぐま社	850	103
3	びよーん	まつおか たつひで／作・絵	ポプラ社	828	133
4	だるまさんが	かがくい ひろし／さく	ブロンズ新社	807	76
5	だるまさんと	かがくい ひろし／さく	ブロンズ新社	796	60
6	だるまさんの	かがくい ひろし／さく	ブロンズ新社	761	68
7	そらめくんのベッド	なかや みわ／さく・え	福音館書店	749	70
8	がたんごとんがたんごとん	安西 水丸／さく	福音館書店	741	122
9	はらぺこあおむし	エリック＝カール／作・絵	偕成社	719	82
10	わにわにのおふる	小風 さち／ぶん	福音館書店	707	68
11	ぼくのくれよん	長 新太／おはなし・え	講談社	692	71
12	きんぎょが にげた	五味 太郎／作	福音館書店	683	94
13	うずらちゃんのかくれんぼ	きもと ももこ／さく	福音館書店	675	100
14	ぐりとぐら	中川 李枝子／さく	福音館書店	663	87
15	たまごのあかちゃん	かんざわ としこ／ぶん	福音館書店	643	90
16	うみの100かいだてのいえ	いわい としお／作	偕成社	638	37
17	おおきなかぶ ロシアの昔話	A.トルストイ／再話	福音館書店	631	76
18	おぼけのてんぷら	せな けいこ／作・絵	ポプラ社	630	61
19	ノントンのたんじょうび	おおとも やすおみ／作	偕成社	627	55
20	わたしのワンピース	にしまき かやこ／え・ぶん	こぐま社	618	66
				14,362	1,642

(2) 年間貸出上位タイトルが総貸出冊数に占める割合（平成 28 年度）

	上位50タイトル	上位100タイトル	上位1,000タイトル	上位5,000タイトル
一般書 年間総貸出数 1,292,603冊のうち	1%	2%	9%	21%
児童書 年間総貸出数 767,366冊のうち	4%	6%	26%	55%

(3) 年間貸出上位タイトルの複本冊数（平成 28 年度）

	上位50タイトル	上位100タイトル	上位1,000タイトル	上位5,000タイトル
一般書	1,088冊	2,003冊	10,916冊	31,332冊
児童書	3,168冊	5,320冊	24,873冊	69,147冊

(4) (一般書) 予約件数上位 10 タイトル予約件数と蔵書冊数の比較

	柏市	佐倉市	鎌倉市	大和市	八千代市	海老名市
人口	418,824	172,145	172,352	234,293	194,333	130,860
登録者	80,879	113,017	83,631	-	81,256	90,280
登録率	19.3%	65.7%	48.5%	-	41.8%	69.0%
予約件数	2,839	2,238	2,958	1,790	1,839	1,142
蔵書冊数	199	94	91	80	61	23

(5) タイトル別の蔵書冊数比較

タイトル	著者名	自治体名	岐阜市	富山市	海老名市	柏市	伊万里市	塩尻市	武雄市	瀬戸内市
		人口	410,473	417,472	132,298	423,787	55,246	66,975	49,179	37,511
		登録者数	226,900	104,744	90,280	80,879	41,949	38,514	29,498	-
蜜蜂と遠雷	恩田 陸		10	8	5	25	3	4	3	5
火花	又吉 直樹		2	17	6	23	1	5	5	1
コンビニ人間	村田 沙耶香		9	8	3	28	2	4	4	4
陸王	池井戸 潤		12	9	3	20	2	3	2	1
宝くじで1億円当たった人の末路	鈴木 信行		5	4	1	10	1	1	0	0
嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え	岸見 一郎		8	5	1	18	1	2	1	3
AI vs. 教科書が読めない子どもたち	新井 紀子		3	3	0	6	1	1	1	1
未来の年表 人口減少日本でこれから起きること	河合 雅司		3	2	1	7	1	1	1	1
LIFE SHIFT	リンダ・グラットン		2	2	1	7	0	1	0	1
サビエンス全史 上	ユヴァル・ノア・ハラリ		3	4	1	10	1	1	1	1
応仁の乱	呉座 勇一		4	5	1	12	1	1	0	1
はじめての人のための3000円投資生活	横山 光昭		3	2	2	7	0	1	0	1
どんなに体がほしい人でもベターと開脚できるようになるすごい方法	Eiko		6	7	1	16	1	1	2	2
漫画 君たちはどう生きるか	吉野 源三郎		6	0	1	5	1	3	6	3
モデルが秘密にしたがる体幹リセットダイエット	佐久間 健一		5	2	1	6	1	1	1	1
しろくまちゃんのほっとけーき	わかやま けん		23	32	7	72	13	19	1	5
はらぺこあおむし	エリック カール		34	31	8	61	26	14	10	6
びよーん	まつおか たつひで		35	28	6	100	8	18	4	5
		合計	173	169	49	433	64	81	42	42

※(4)と(5)は平成30年5月調べ

## 2. 柏市立図書館資料収集方針（抜粋）

- ・図書館の蔵書は、基本的には市民の求めに応じて収集するべきものである。（1-(3)-②）
- ・リクエストの多い資料の複本購入に関しては、現時点では上限を柏市内全館で合計 20 冊とする。（2-(1)-②）

### 【運用】

- ・市民からのリクエストについては、可能な限り提供する。
- ・20 冊の根拠は、図書館数（20 館+ $\alpha$ ）
- ・一般書についてはタイトル数を多く所蔵していく方向だが、読書欲求を低減しないよう、予約・リクエスト数に応じて 20 冊まで購入、30 冊まで寄贈を受け、所蔵する。
- ・短く貴重な子ども時代に読む本の質を重要視する必要があるため、児童書については、数・多様性は問題としない。
- ・児童書については、子ども（その保護者）が読みたい（読んであげたい）という欲求を持った時に、なるべく早く提供することで、読書への関心を維持することができることから、来館時にすぐ手に取ってもらえるように、いわゆる定番の本（評価が定まっており子どもへの提供を薦められる本）は、複本を多く持つ。
- ・児童書は、学校図書館や読み聞かせ団体などへの提供分としても、複本を確保する。

## 3. 柏市立図書館寄贈資料に関する取扱い基準（抜粋）

- ・「収集方針」に準拠し、原則として出版後、5 年以内のものを受領する。（3-(1)）
- ・郷土に関する図書・古文書・パンフレット類・雑誌等は、出版年に関わらず受領することを原則とする。（3-(2)）

### 【運用】

#### <寄贈資料の基本的な判断について>

- ・予約数が所蔵数の 5 倍を超えている、かつ複本が 30 冊未満である。
- ・5 倍の根拠は、予約の待ち時間を極力短くして、読書欲求の低減を防ぐため。  
※貸出期間 2 週間を 5 人分待つと、2 ヶ月半が提供までの待ち時間となる。

#### <その他>

- ・一般書の寄贈図書は、汚損資料の入替、予約の多い資料の複本、予約はなくても書架にあれば必ず貸し出されるもの、欠本補充等で活用している。



#### 4. 書店からの図書購入について

##### (1) 図書等納入仕様書より抜粋 (3-①)

###### <納入の条件>

納入する図書は、別紙の柏市立図書館資料装備要件書のとおり<sup>1</sup>の装備を施し定価で納入すること。

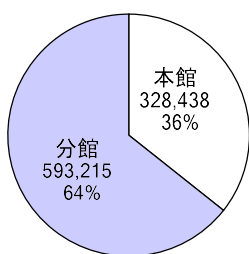
##### (2) 購入業者選定基準より抜粋 (3-(1))

###### <購入業者の選定>

図書資料を取り扱う業者のうち、柏市に事業所又は店舗を有しているものであって、柏市の入札参加資格者名簿に登録されているもの。

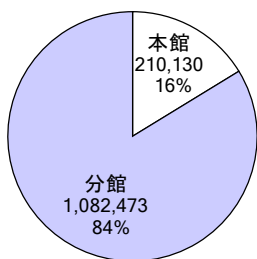
#### 5. 蔵書の配置状況 (平成27年度データから作成)

蔵書数(92万冊)

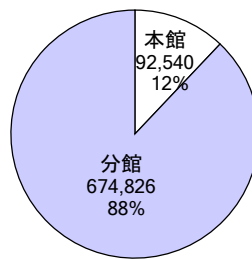


#### 6. 図書貸出状況 (平成27年度データから作成)

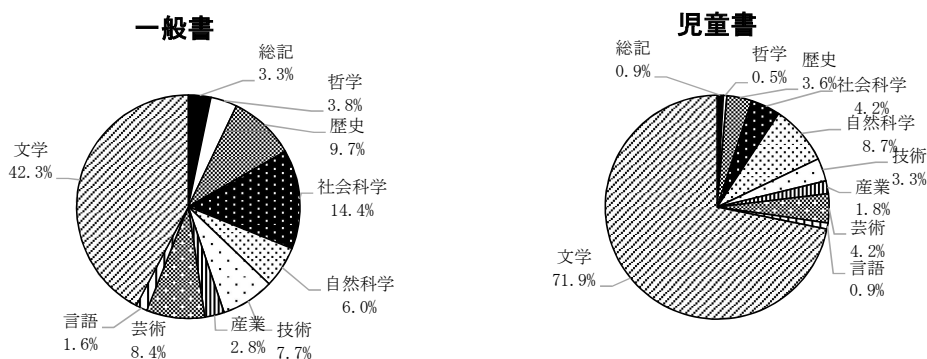
貸出数(一般書・129万冊)



貸出数(児童書・76万冊)

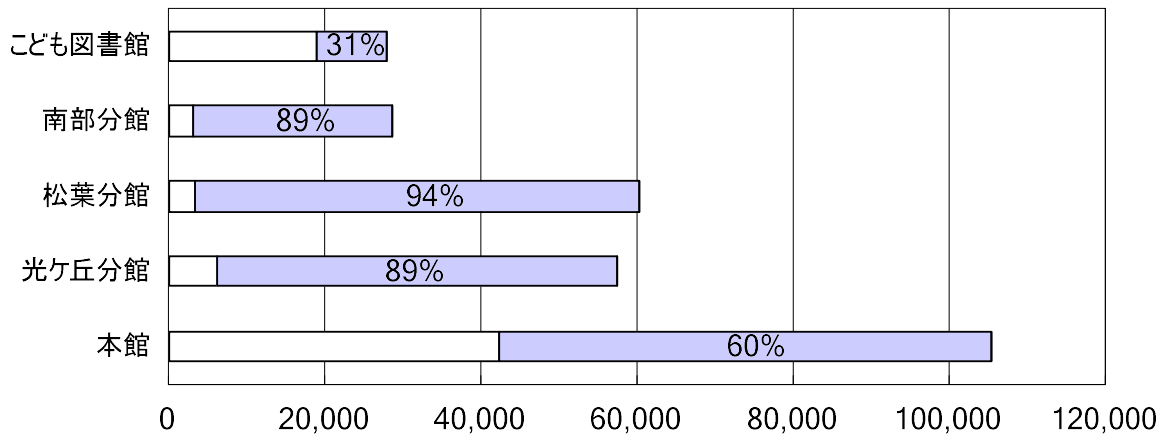


#### 7. 分類別蔵書構成比 (平成28年度データから作成)



## 8. 貸出利用者の地域分布（平成28年度データから作成）

（網掛け：半径2km内大字居住者の貸出冊数割合）



※分館利用者の約9割は近隣住民。こども図書館は広域から利用者を集めているが、本館利用者の6割が近隣住民となっており、広域から利用者を集められていない。

## 9. 柏市第五次総合計画での位置づけ

（施策4-3）地域や社会の課題に対応した生涯学習の推進（全体版P.102-104）

### 《2 地域と人をつくる図書館の推進》

（取組内容）

地域課題を解決し、地域で活躍する市民を増やすため、地域の課題を知り、その対処法について考えられる資料を充実し、レファレンスサービス（調査相談）等の情報提供機能を強化します。また、知識を地域で活用できるよう、交流型の読書会や学習会を開催します。

柏市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

〒 277-8503 千葉県柏市大島田 48 番地 1 沼南庁舎 3 階

電話： 04-7191-7393

柏市 HP <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p046994.html>

Facebook <https://www.facebook.com/kashiwa.futurelibrary/>

Twitter [https://twitter.com/kashiwa\\_future1](https://twitter.com/kashiwa_future1)